



教育長 都築公人

平成30年度 教育行政方針

知識基盤社会におけるグローバル化や、技術革新がますます進展するなかで、これからの子どもたちには、みずから課題を発見し、解決に向けて思考、判断して実践し、自分の考えを表現する力が求められています。また、人として、豊かな心をもち、周りの人たちと協調し、互いに高め合うことのできる人間性を高めていくことが重要です。学校は、未来を担う子どもたちがたくましく生き抜くために、これらの資質・能力を育てていかなければなりません。

「第6次高浜市総合計画」のもとで「教育基本構想」を策定し、前期3年、中期4年の基本計画に基づいて教育実践に取り組み、学校・家庭・地域が連携を深め、子どもたちの学びや育ちのつながりを大切にするにより成果を上げてきました。いろいろな人たちと関わりながら学び、「できた」「わかった」という喜びを感じ、周りから認められ、自分の成長を実感する経験を、子どもたちに繰り返し体験させることが「学び続ける力」を培うために重要であると考えます。平成30年度からは、後期基本計画のもとで、引き続き学びや育ちをつなげる実践を積み上げていきます。

昨年、これまでにない大改革といわれる「新学習指導要領」が告示されます。平成30年度より移行期間を迎えます。完全実施となる特別の教科「道徳」をはじめ、外国語活動・外国語科、プログラミング学習、プログラミング的思考やICTを活用した授業実践などへの取組みを計画的に進めます。そして、子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」を充実させることができるような体制を全教職員で構築していきます。

また、いじめや不登校の問題、児童生徒の貧困問題、教職員の多忙化問題などに対し、園・学校と家庭・地域が力を合わせて、子どもを育てる環境をつくります。

日本は少子高齢化、人口減少による危機を感じる時代となっています。現在、当市の人口は微増ながらも増加傾向ですが、この流れも長く続く保証はありません。「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかほま」この将来都市像を実現するのは、魅力的なまちづくりと、そこに生きる人の育成であると考えます。今の子どもたちが、将来、社会に出て活躍し、未来の高浜市を創る原動力となる人材に成長することを願う

てやみません。子どもたちは、さまざまな人とかかわりながら学び、自分の成長を実感することで自己有用感や自己存在感が生まれます。そして、学び続ける力が湧き、学んだことを生かしてよりよい社会を築こうという意識や行動につながります。そのために、今こそ学校、家庭、地域で協働して子どもたちを育てていかなければなりません。学校は、その地域を映し出す鏡であるといわれます。子どもたちや教職員、保護者、地域の方などから構成される一つの社会である学校を、みんなの力で育てていきたいと考えます。

高浜市教育委員会は、高浜教育ビジョンである「高浜を愛し、高浜の良さを学んで、高浜でたくましく生きる未来市民の育成」の実現に向けて、家庭や地域の方、各種団体のご協力、ご指導をいただきながら、これからも地域と協働する学校づくりを推進していきます。

※本文は市議会3月定例会で行った教育行政方針演説を要約したものです。

